青森港
ユニット貨物拠点化推進事業について

令和２年１月３０日（木）

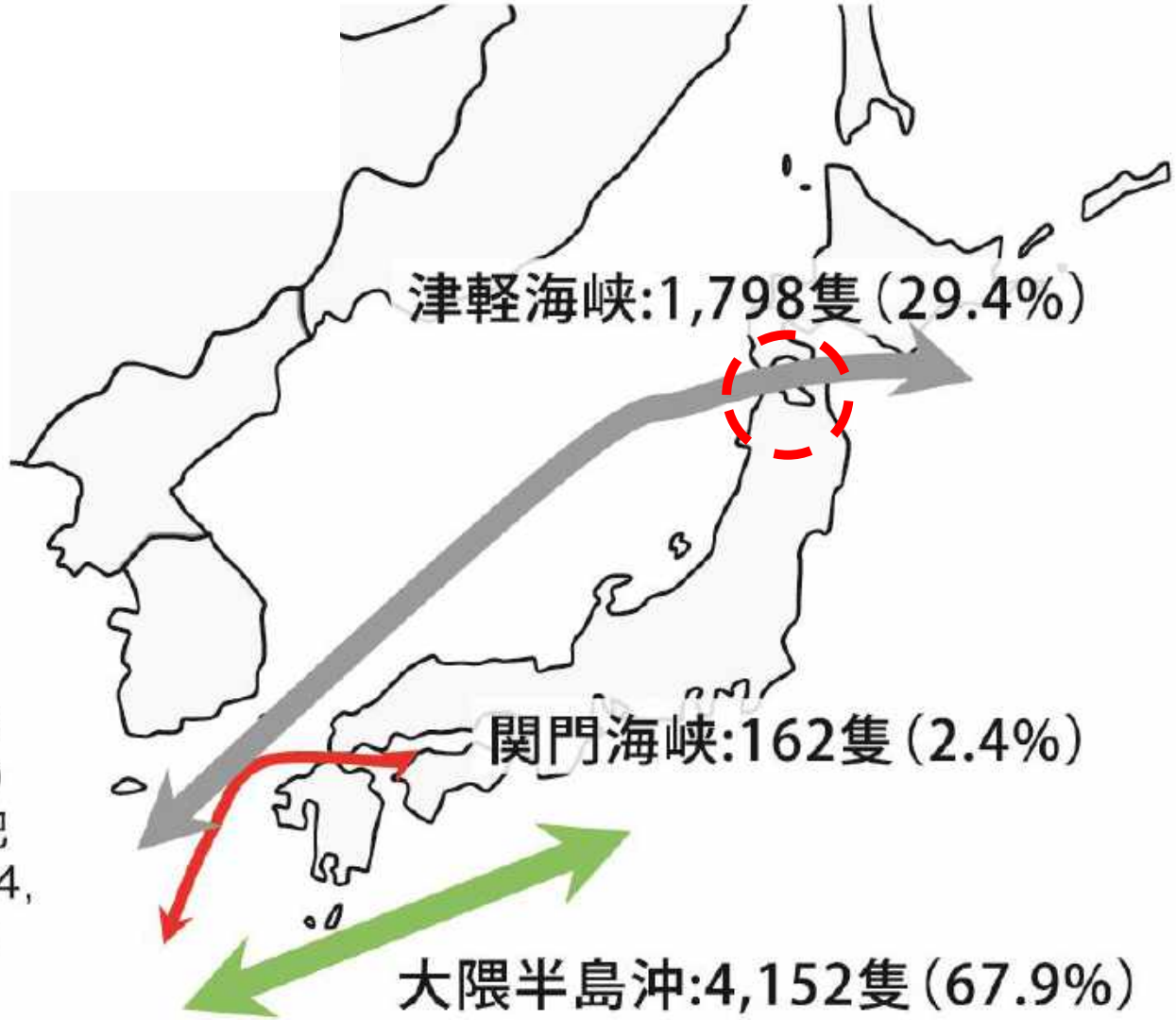
青森県県土整備部港湾空港課
對　馬　禎　悦

青森県の物流拠点としてのポテンシャル

- 青森県内の港湾・空港と幹線道路網
- 三方を海（太平洋、津軽海峡、日本海）に囲まれ、本州と北海道間の物流の結節点

青森県の物流拠点としてのポテンシャル

●北東アジアと北米・欧州間の物流の結節点（北東アジアと北米を結ぶコンテナ船舶の約３割が津軽海峡を通過）



最初・最終港別
通航海域別隻数'09
※西航・東航の合計

（資料）赤倉康寛、竹村慎治「北東アジアー北米コンテナ航路の日本近海における通航海域の把握・分析」『運輸政策研究』Vol.14, No.1,2011 Springより作成

青森県ロジスティクス戦略

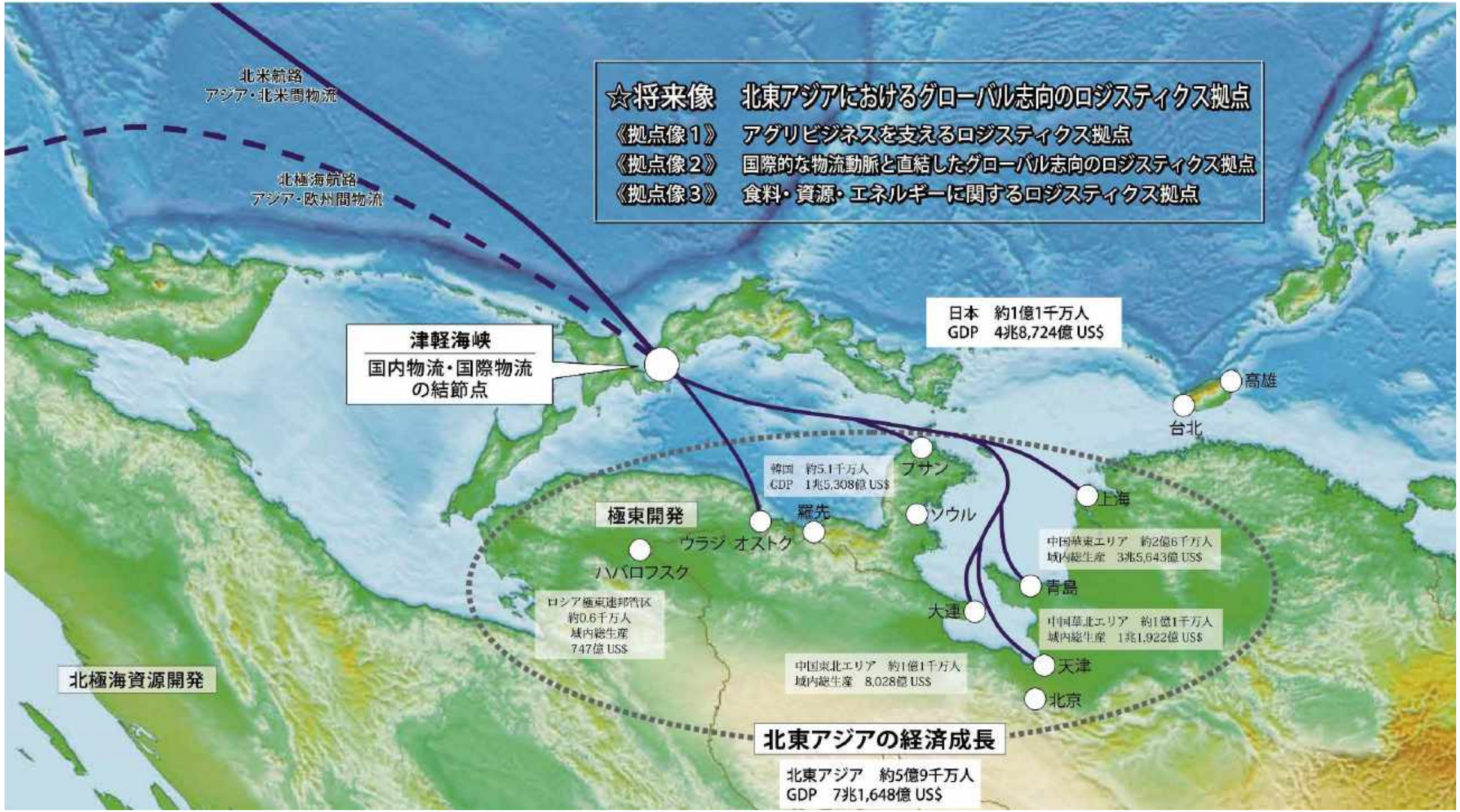
●本県の全方位的な海上アプローチの良さと、物流拠点としてのポテンシャルの高さ
●産業活動の一層充実のため、時間、距離、コスト、情報の壁を乗り越えて、消費市場と生産市場とが円滑につながる環境づくり

→平成26年1月に「青森県ロジスティクス戦略」を策定（計画期間：平成２６～３０年度）

● ５年間取組を推進してきた成果
・青森県総合流通プラットフォーム「A!Premium」
・民間主導によるモーダルミックスの動き
●ここ数年のロジスティクスをめぐる環境変化
・トラックドライバーの高齢化
・ネット通販の拡大等による荷物個数の増大
・IoTやAIの活用による業務効率化

→５年間の成果と環境変化を踏まえ、さらなるロジスティクス基盤の整備に向け、平成31年3月に「青森県ロジスティクス戦略2ndステージ」を策定

青森県ロジスティクス戦略



【Ａ！Ｐｒｅｍｉｕｍのサービス内容】

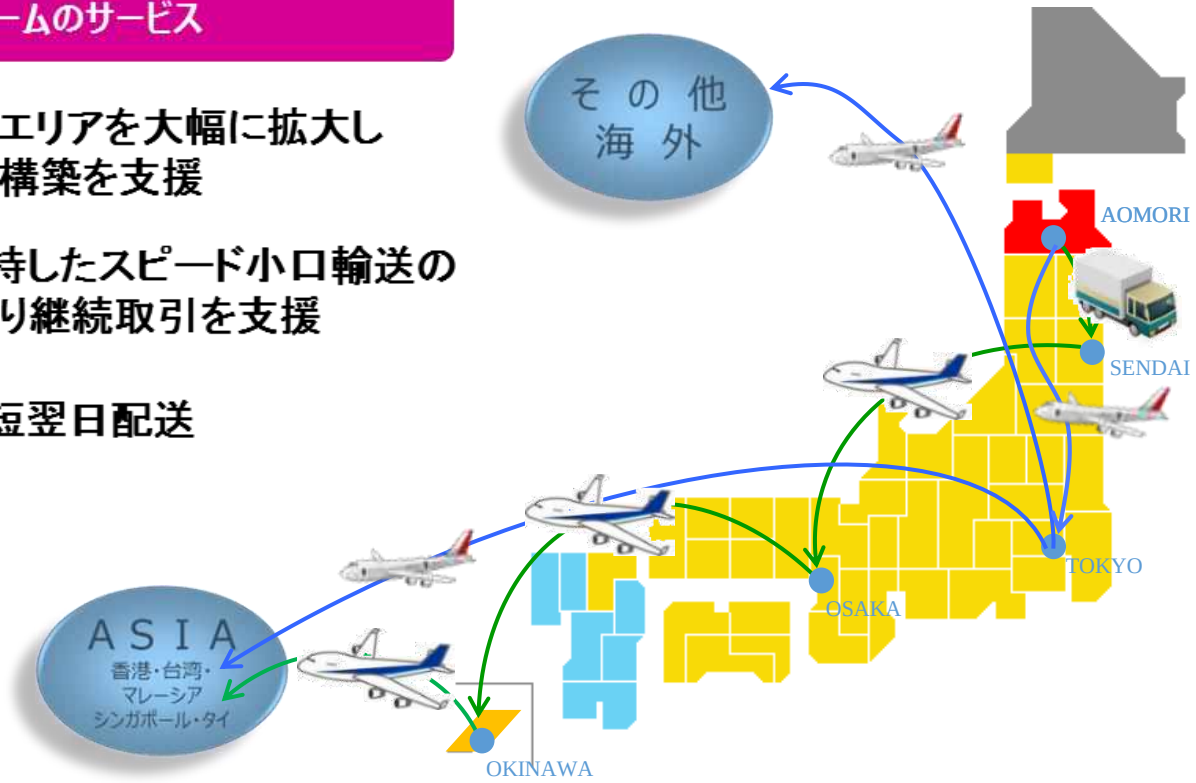
輸送時間の短縮と鮮度・品質を保持した付加価値の高い物流により、農林水産品等の国内外への流通拡大を物流面で支援することを目的とした輸送サービス。

通常の宅急便サービスレベル

※翌日午前中配達が可能なエリアの人口カバー率 **7.5%**

プラットフォームのサービス

- POINT! 翌日午前中配達エリアを大幅に拡大し西日本への販路構築を支援
- POINT! 鮮度、品質を維持したスピード小口輸送の365日運行により継続取引を支援
- POINT! アジア圏への最短翌日配送



青森港ユニット貨物拠点化推進事業

■青森港ビジョン～青函圏から世界につながるGATE-Port戦略～

青森港を取り巻く社会情勢の変化等を踏まえ、国、青森県や青森市をはじめとする地元関係者が２０～３０年の長期的な戦略を共有した上で、今後、青森港において連携した取組を着実に実施していくための指針

［将来像：青函圏から世界につながるGATE-Port］

物　流（Transport）
青函圏の物流拠点

防　災（Against disaster）
北東北の広域防災拠点

交　流（Global tourism）
世界に開かれ誰もが親しめる空間

環　境（Environment）
自然豊かでふれあえる海辺

GATE-Port

［物流面の基本戦略］

基本戦略１　本州・北海道を結ぶ物流の大動脈の形成

基本戦略２　県民生活を支えるエネルギー拠点の形成

基本戦略３　産業立地や新たな貨物に対応した物流拠点の創造

青森港ユニット貨物拠点化推進事業

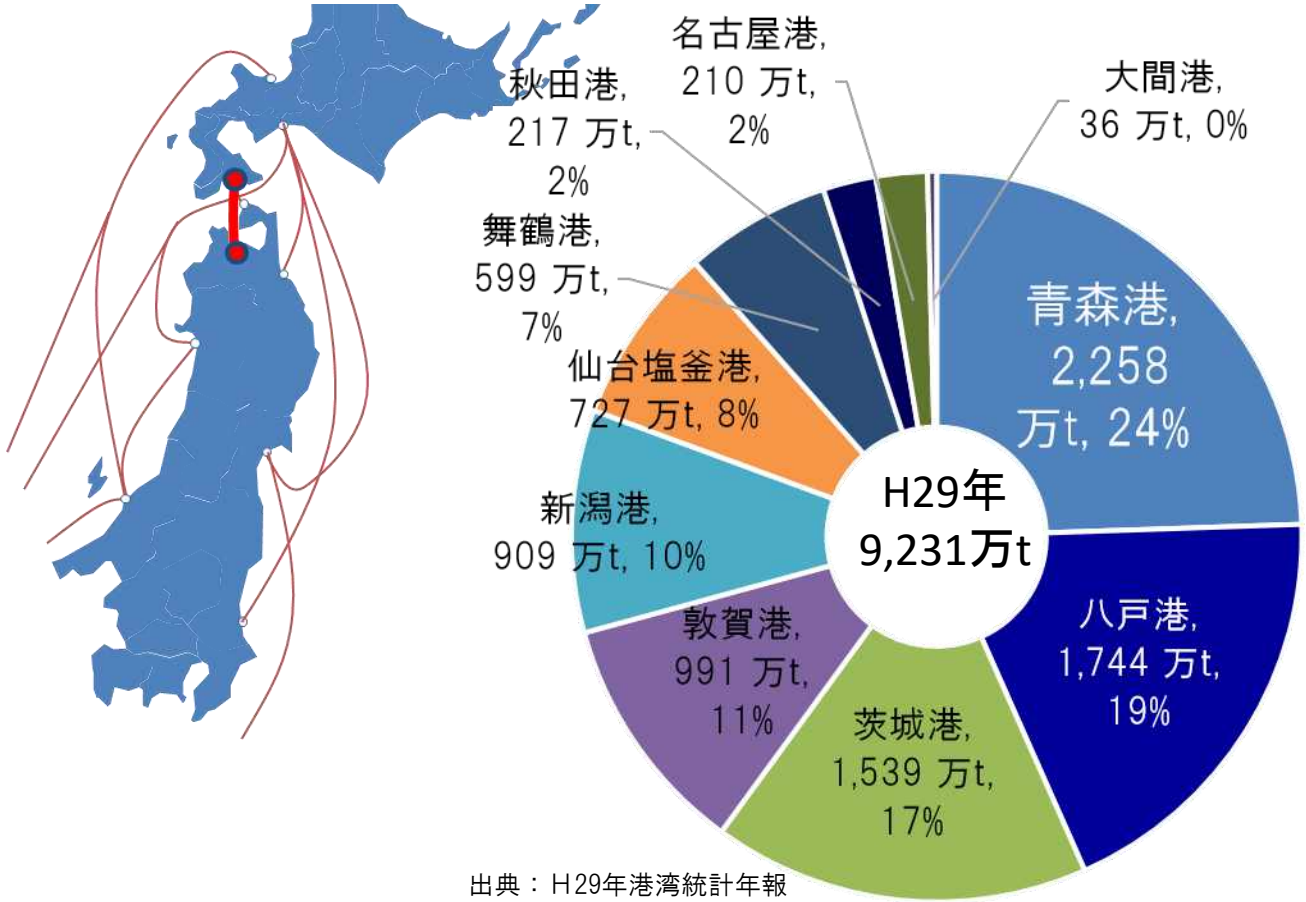
■ 青森港の現状

青森港は本州と北海道を結ぶ海の玄関口

・青函圏の産業と生活を支える物流拠点

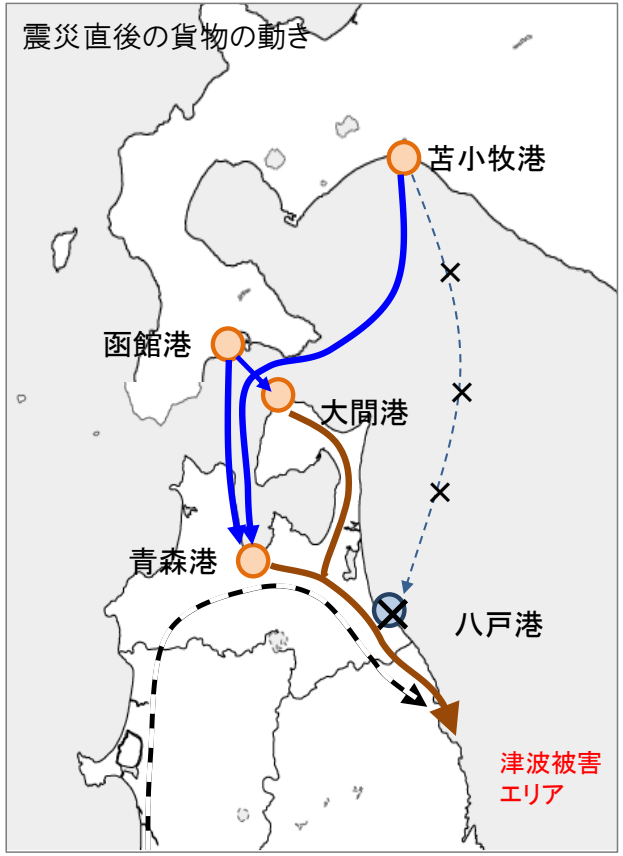
・大規模災害時には物資輸送基地として重要な役割

本州-北海道間の港別フェリー輸送比率



出典：H29年港湾統計年報

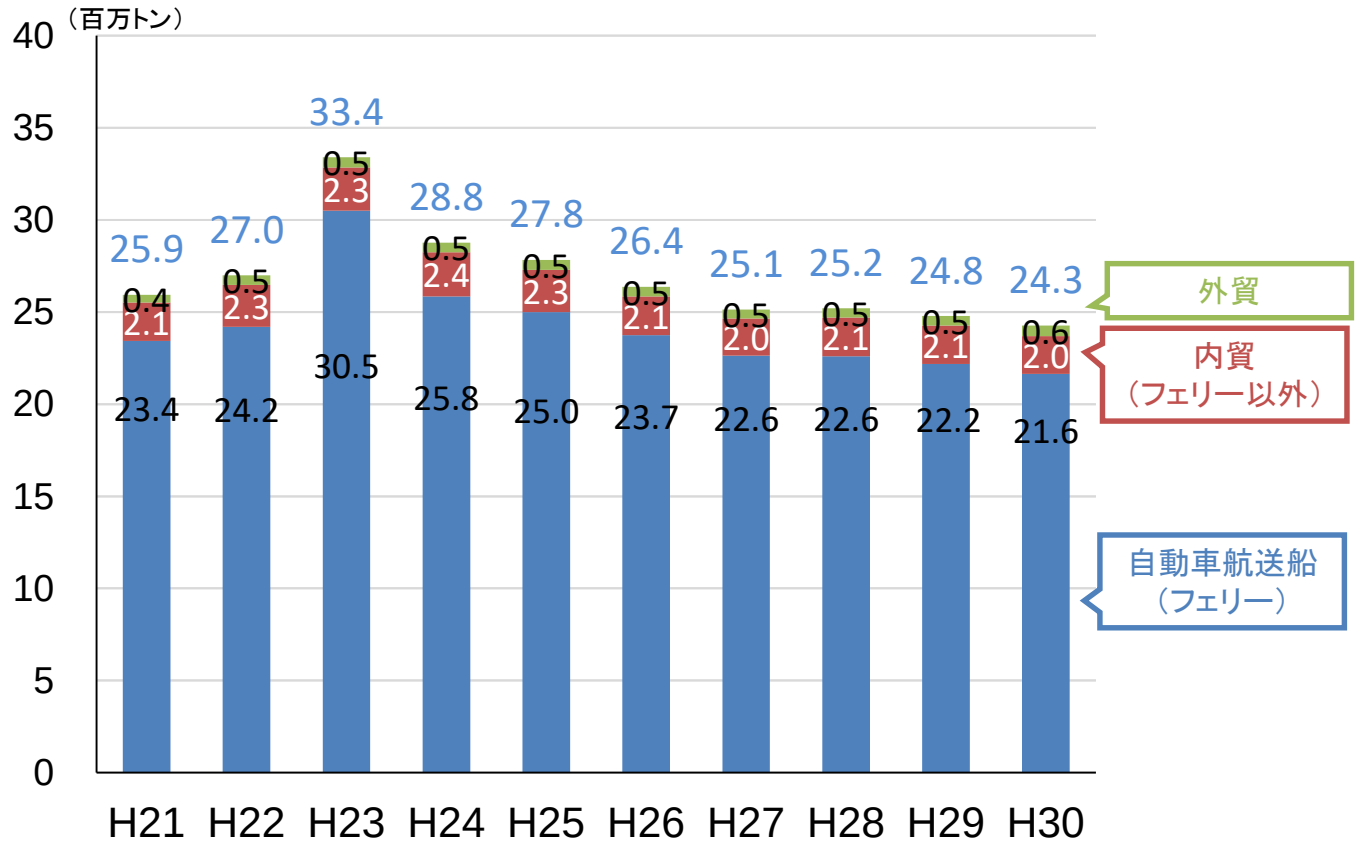
東日本大震災（２０１１年）では、八戸・苫小牧航路が機能するまでの数ヶ月間、八戸港にかわり石油製品や物資の輸送拠点として機能した。



青森港ユニット貨物拠点化推進事業

■青森港の現状
・取扱貨物量の９割はフェリー貨物であるが、年々減少傾向
・青森・室蘭間のフェリー航路が廃止（平成20年）

青森港の取扱貨物量の推移



青森-北海道間のフェリー航路

青森港ユニット貨物拠点化推進事業

【青森港の物流環境が大きく変化】

- 全国的に海上輸送の輸送能力拡大
- 運送業界における人手不足感の着実な高まり
- シャーシ輸送の拡大、有人輸送は休息時間の取れる航路へシフト
- 北海道の物流環境の変化が鮮明

（津軽海峡を通過する鉄道貨物の海上シフト構想の立案、道内最大級の冷凍冷蔵倉庫整備など）

取り巻く物流環境の変化を乗り越え、青森港の競争力向上と広域防災拠点機能の維持を図り、持続可能な発展に繋げるため、

今年度から「**青森港ユニット貨物拠点化推進事業**」に着手

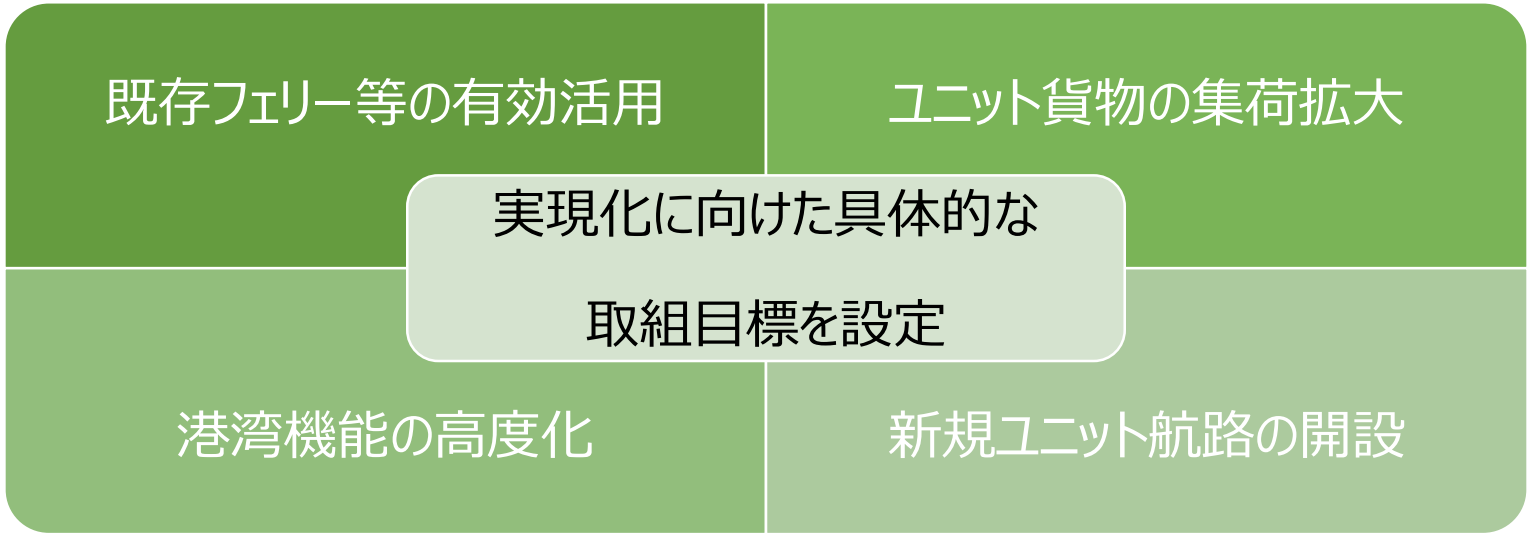
青森港ユニット貨物拠点化推進事業

【青森港ユニット貨物拠点化推進事業の取組内容】

●輸送効率・利便性の向上による集荷促進や航路開設等への取組

●労働者不足に対応した青森港の競争力・価値向上を図るための仕組みづくり

※ユニット貨物とは・・・コンテナやシャシー等、同規格の容器に複数の貨物をひとまとめにした効率的な荷役が可能となる貨物のこと。



青森港ユニット貨物拠点化推進事業

●青森港の新規ユニット航路のあり方

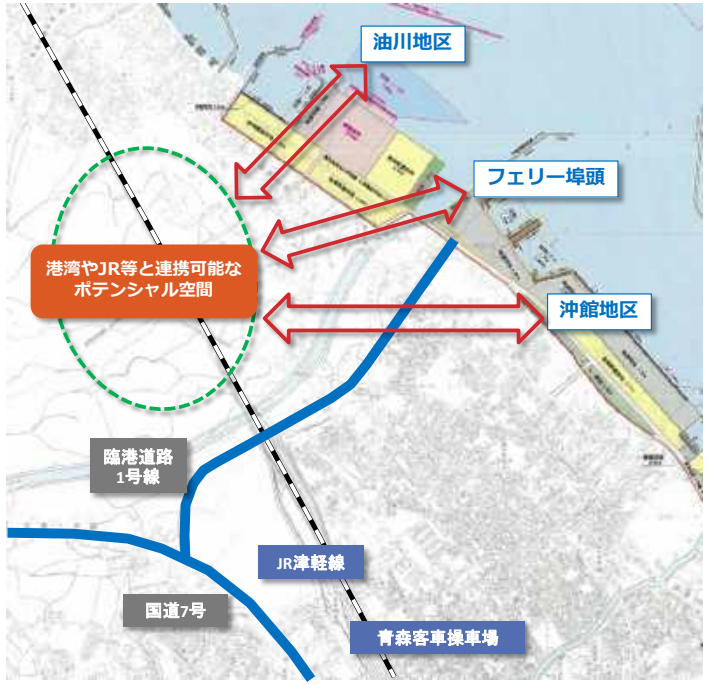
【北海道との航路を検討】

既存フェリー航路である青函航路及び八苫航路を補完しつつ青森・北海道間のユニットロード航路を開発するとともに青森港の利用特性に着目した関東以西の輸送効率改善の仕組みを検討していく。

●青森港への貨物集荷・集約等のあり方

【港内開発空間や背後地のポテンシャル空間の利用】

開発可能なポテンシャル空間（油川地区）を活かし、鉄道・船舶・トラックの複合一貫輸送機能及び近隣地域からの集荷等が可能な倉庫機能の確保を検討していく。



青森港ユニット貨物拠点化推進事業

●港湾・運送労働者不足を踏まえた青森港の物流のあり方

【ＩＯＴ利用による荷役作業等の改善を検討】

国の実証プロジェクト等の活用によりフェリーなどを対象としてＩＯＴを用いた荷役作業等の生産性向上に関する仕組を検討していく。

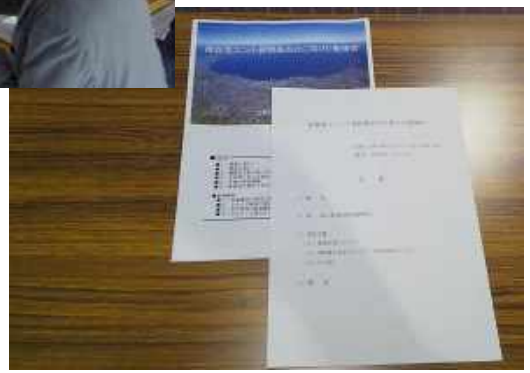
青森港ユニット貨物拠点化推進事業

●今後の進め方

　ユニット貨物の拠点化を目指し、青森港の関係者とともに勉強会を開催し、実現に向けた具体策の検討を進めていく。
　また、併せてポートセールスを積極的に進めるとともに地元の機運醸成に努めていく。

勉強会メンバー
【国土交通省、青森市、青森港振興協会、
（一財）青森地域社会研究所、
津軽海峡フェリー(株)、高取ロジスティックス(株)　等】

【第1回勉強会：八甲田丸大ホール】



ご静聴ありがとうございました。

Thank you for your kind attention.